

Musée Bernard Buffet



Buffet-Kun e-book vol.5

バルサール・ビュッエをもっと好きになる月刊紙!!

ARTIST &

第5号

1945-1950

ビュフエクルとパナベル

西島大介



15歳のヒョーに ビュフェに通っていたパリ6区
「エツール・ド・ボガール」(国立美術高等学校)の
すぐ近く、
戦前・戦後の文化人のたまり場
でした。

第二次世界大戦のころ (1939 - 1945)。

当時の写真を見ると、脱ぐお踊るお相當の乱痴気パーティーだったようです。

しかし、画家を目指す学生
ビュフェにとって
サン=ジュルマン=デ=プレは
あくまで
「美術学校のある土地」。

多くの芸術家が
カフェやビストロ、
地下のクラブに

集まり
ましたが...

オレたち
穴倉の
イモト
Santé
サン=イ
イモト



近くの画廊へ
寄ることはあっても、
ビュフェが
サン=ジュルマン=デ=プレに
入り込むことは
無かったです。



表紙の「バイスコンティン」画廊も6区にありました。



基本は良いですね。アナルも。

後に妻となり、ビュフェにとって
創作のミューズの存在となる
この土地に通っていました。

Annabel
アナベル

地下。

1936年、アタベルがまだ10歳にもならないと見、母が自死。

ビュフェと同じ1928年生まれ。
複雑な家庭環境から
エカールの頃は孤独だったそう。
ここまたビュフェと同様に
母を喪ったアタベルは、
19歳になると、(1947年頃)
サン＝ジェルマン＝デ＝プレへ。



容姿端麗で
語学上堪能な
アタベルは、
モデルとして
また 翻訳家や
作家書きとしても
活動。



歌手としても活動。

作家の
フランソワーズ・
サガンや、

歌手の
ジュリエット・グレコら
と交流しました。
カフェでのアタベルの姿は
写真に残っています。

悲しみよ
こんにちは



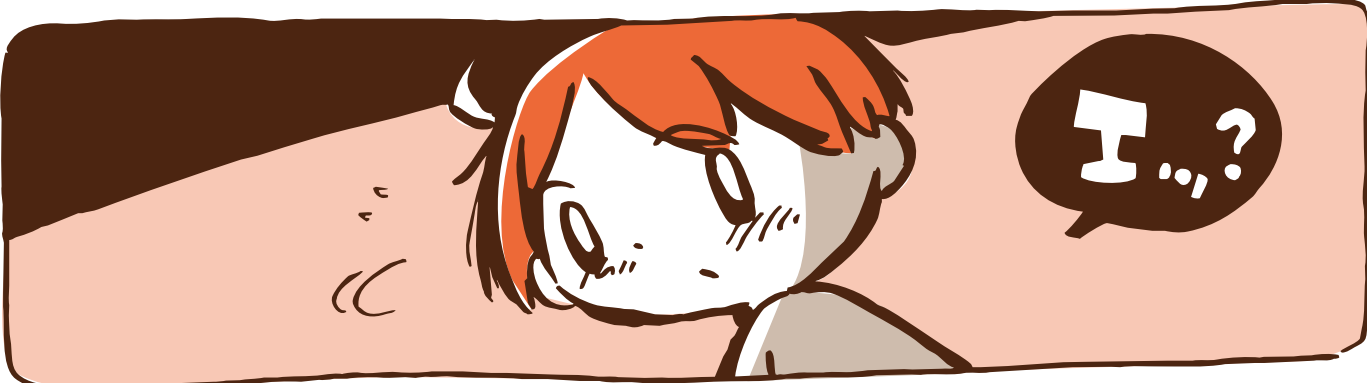
1950年、二人は前妻と離婚。

サガン、グレゴ、思想家サルトル、
そのパートナーのボーヴォワール、ボリス・グエンイ也。
華々しく刹那的なたまり土場文化
サン=ジェルマン=デ=フの
喧騒の中。



1950年、二人はともに22歳くらい。

アサヒにこの結婚は、8年後...1958年。



ビュフェクンとアサベル。

後に別の場所で出会い次に落ちる二人は
街のどこかですれ違っていったのかも
しれません♡♡♡



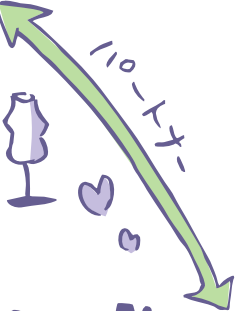
運命?

そういう記録はないけれど。

ファッション・デザイナー。
 ディオールを経て、1962年独立。ベルギー
 サポートで
 世界的ブ

イヴ・サンローラン

Yves
 Saint-
 Laurent



ピエール・ベルジェ



人脈を駆使して
 文化とビジネスを
 産み出すぞ

映画 (2014)
 「イヴ・サンローラン」に
 いろいろ詳しくいろいろ
 見てくれ!

阿片は
 かめた……

Jean
 Cocteau ジャン・コクトー



友人

アニメ化された
 「木を植えた男」
 原作者じゃ

哲学的
 田舎暮らし!

Jean
 Giono ジャン・ジヨ

二度も逮捕された
 反骨の作家。
 残禁だった
 「純粋の探求」を
 ビュフェと
 挿絵本として
 共作。
 (1953)



詩人・作家・評論家。

モデルリアーニや
 ピカソとも交ミ流。
 ビュフェの理解者であり、
 挿絵本「声」を共作。
 (1957)

フランソワーズ・
 サガン

Françoise
 Sagan

小説家、詩人。
 アナベルの友人であり
 後にビュフェはサガン原作の
 バレエ「失われたランティグー」の
 舞台美術を担当。

Musée Bernard Buffet

アナベルと

Saint-Germain-des-Prés の

人々

